



AJU 愛実

第26号 会報

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／愛実友だちの家／紙風船)

定価：一部100円

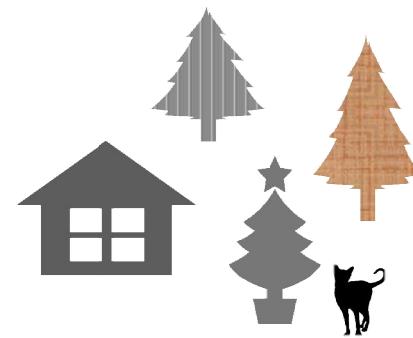
理事長 島しづ子より	• P1
愛実友だちの家のページ	• P2
大地の家のページ	• P3～4
紙風船のページ	• P5～8
「共感をつくりだす時間の大切さ」／南 寿樹	• P9
事務所より	• P10～11
寄付者名簿	• P12



大地の家★民宿体験



紙風船★名古屋市科学館



愛実友だちの家★阿知波さんを送る会



研修と休むこと

理事長 島 しづ子

海外の福祉事情を知るというのは簡単なことではないですね。

私は2011年からフランスのピエルフォンの（地域生活をするメンバーとアシスタントが共に住む家）ラルシュ・ホームを訪問してきました。世界的有名なラルシュ・ホーム運動ですが、理念については知ることはできても、その実態は自分で体験しないとわかりませんし、わかったとしても一部分でしかありません。それでも懲りずに訪問を続けてきたのは自分の休養と新しい何かを発見するためでした。書物では知りえなかったことを沢山学びました。特にどこも人の集まりである以上、問題が山積みであるという事実には、感動されます。

休養とは現場を離れる事が一番です。飛行機で空に上がった途端、解放感を覚えます。それなのに、旅が終わる頃にはメンバーとアシスタントとの再会を心待ちにしている自分に気が付きます。旅に出る前以上の愛情を覚えるのです。現場を離れて、休んで、相手のことをより深く理解できたようなこともあります。リフレッシュした後は、活力も湧き、新しい発想が生まれることも体験させて頂きました。それまで、仕事中心の生活で、自分が疲れている事も、不機嫌になっている事も気付かず、周囲に迷惑をかけていたことも反省しました。

誰にとっても海外まで出かけることは金銭的にも時間的にも贅沢なことです。毎回出かけることに悩みますが、人との出会いや休養を通して、結果的には大きな収穫を与えてきました。

今回、アシスタントの皆さんと台湾研修に行ってきました。台湾にあるエンゼルセンターは、理事の島田恵子さんの友人・胡淑春さんが働いている施設です。海外からの見学者ということで歓迎されました。エンゼルセンターを始めたカトリックの神父は、施設をラルシュ・ホームにしたかったそうです。現在はカトリック教区の主催する法人として活動していました。きめ細かな取り組みや配慮はラルシュ・ホームに学んだからだろうと思いました。フランス人の神父さんは御兄弟が障がい者で、障がい者の施設作りに力を入れたようです。私も娘が障がい者だから、25年に渡って愛実の会やたんぽぽの仕事をすることになりました。障がい者の家族にとって、ラルシュ・ホームは夢のような施設です。メンバーを大事にしてくれる、家族のように愛してくれる。名古屋でもそういうホームが欲しいと願い続けています。でも、最近思います。ラルシュ・ホームを名乗ることは無くとも、エンゼルセンターも愛実の会も、「メンバーと友達として歩む、大事にし合う、助け合う。」このことが実現できたらいいのだ！ということです。

台湾研修では一箇所だけの施設見学でしたが、ゆっくりと見学させてもらい、あらためて私たちの仕事を見直すことが出来ました。また、互いに仕事の顔ばかりだったアシスタントが、観光に、食事に、解放された笑顔で輝いている様子に接し感動しました。部署が違うアシスタント同士も一緒に過ごし、笑いあい、話し合いが出来ました。留守番された方々には申し訳ありませんが、私も心の底から楽しみました。働く仲間と苦労ばかりでなく楽しみも分かち合う、それが楽しかったのかもしれません。私もまた元気を貰いましたし、アシスタントの皆さんもきっとそうだと思います。

送り出してくださったメンバーの皆さん、行けなかったアシスタントの皆さん、ありがとうございました。

愛実友だちの家のページ



今年の暑い夏も、みんな元気！

水遊び



この夏は暑い日ばかり。クーラーの効いた室内で過ごしてばかりだと、かえって体調を崩しがち。この日は、愛実の前のテラスに出て、”納涼水遊び”を楽しみました。プールで足を冷やしつつ、アロマ入りのミスト水を霧吹きで掛け合い(#^.^#)涼しくなって、しかもいい香り。火照った体もほどよく冷えて、笑顔もたくさん見せてくれました。



魚釣りゲーム



メンバーとアシスタントで力を合わせて作り上げた、魚釣りゲーム！フェルトで作った魚にホッチキスの針が打ってあって、磁石のついた釣竿で釣り上げるゲームです。魚の裏側に点数が書いてあって、総合点を競います。高得点狙いで大物を釣ろうとするあまり、長靴などを釣り上げてしまい、マイナス点の時も(*_*)…白熱したゲームになりました＾＾



夏祭り



今年も大地の家開催の夏祭りに、よばれに行ってきました。ふだんまつたりのメンバーなので、賑やかな雰囲気に気おされちゃうかなーっと思いきや、存分に楽しんでいました(^O^) 宝くじ引きや、風船釣り、輪投げなど、いろんな出し物に挑戦、夏祭りを満喫してきました。普段あまり顔をあわせない大地や紙風船のメンバーとも交流をもてて、充実したひとときでした。



博物館見学



名古屋市博物館へ出かけてきました。この日の展示・催しものは、「マジックの時間」。手品に関する古今東西の展示だけでなく、なんと、目の前で手品や口上の実演を見られるということで、楽しみに出かけました。会場では、手品ショーを目の前で見ることができ、メンバーだけでなくアシスタントも目を丸くして見入ってしまいました。

展示も木でできた高さ数メートルの大きな人形があつたり、ろくろ首の実物の仕掛けなどは実際に手に取って見る事も出来ました。ろくろ首に、ピクリ泣き顔一歩手前のメンバーも・・・それでも和気あいあい楽しい外出でした。





大地の家のページ

(P 3~4)

みなさんこんにちは！大地の家です。厳しかった残暑も終わり、だんだんと寒い冬がやってきましたね。体温調節の難しい季節ですので、体調不良や風邪には十分と気をつけていきたいです。さて、今回は夏に行ってきた「ビーチランド＆民宿」の体験談と、今年度からの新しい試み、少人数制での「クラブ活動」の様子をお届けします♪

海の生物とのふれあい、初めての民宿、畳の上でのご飯・・・。

最初は手探りながらも嗜好を凝らした各曜日毎のクラブ活動・・・。

見どころいっぱいな大地の家の様子を見ていってください (^ー^)

南知多ビーチランド

知多半島の先にある、南知多へお出かけしました。この日はびっくりするくらいの良い天気で気温も30度を軽く超える猛暑日！帽子やタオルを被ったり、水分補給を小まめに摂りながら熱中症対策もしっかり行いながら南知多ビーチランドへ遊びにいきました。

イルカとボールキャッチ、（きまぐれなイルカに戸惑うメンバー＆アシスタント）

ペンギンにイワシの餌やり、（おそるおそる生魚の感触＆匂いを体験しました）

アザラシとアシカにハイタッチ！（つぶらな瞳がとても可愛かったです）

などなどランド内を満喫しました。

海の生き物たちに最初はおっかなびっくりだったメンバーでしたが、フレンドリーに接してくれる彼らを前にだんだんと笑顔が・・・。暑かったけど楽しい一日でした (^ー^)



民宿体験

ビーチランドの次は民宿へ。メンバーとアシスタントにとっては新たな試みが！ディとしては初めての、畳の上での食事です。普段は車椅子の上での食事となります、今回は思い切って畳に上がろう！と挑戦することに。事前にメンバーの保護者の方には畳の上で食事をする時のメンバーの姿勢や気をつけることなどを教えて頂きました。

民宿に着くと、まずは玄関から・・・ではなく縁側の窓から室内に入りました。（玄関には段差が多く入りづらかったためです）暑い屋外から涼しい室内に入るとホッと一息。

昼食には鯛のお頭付きのお刺身を始めとして、民宿料理が並びました。初めての畳の上でしたが、モリモリ食べるメンバー達に一安心！帰りの時間までは座布団を敷いて休憩・・・。一日遊んで疲れたーっと畳に寝ころびました。貴重な体験が出来て良かったです。



2013年 クラブ活動

月曜クラブは、季節に合わせた手浴やフェイスパックを取り入れた、リラックス出来る活動を中心に行いました。フェイスパックでは、口に入ても安全なアボガドやヨーグルト等を使用。なんということでしょう！ビフォーアフターでは、メンバーの肌が見違えるほど、しっとりと透明感に溢っていました。担当○アシ



活発なメンバーが多い火曜クラブは、チャレンジしたい事が多すぎて困っています（笑）2ヶ月かけて牛乳パックからハガキを作り、個性豊かな暑中見舞いを日頃お世話になっている方に送りました。郵送もメンバー自ら郵便局に出向き、重量を計ってもらい発送！初体験です！少人数だからこそ出来る事を、今後も積極的にしていきたいと思います。
来年3月は「打ち上げ」なんて活動も考えています（笑）楽しまなくては火曜クラブではない！！ 担当Sアシ

木曜クラブでは歩行を中心に創作活動にも取り組みました。歩行器を使ったり、アシスタンントと一緒に歩いたりとメンバー1人1人のスタイルで活動を楽しんでいます♪また、創作活動ではお菓子作りをしたり、手作りおもちゃを作ったりしました。これからは昼食時に嚥下を良くする体操や、季節に合わせた活動を取り組んでいきたいです。 担当Mアシ



金曜クラブのメンバーは、男性2名女性1名の3名で、皆さんとても活発なメンバーばかり！活動も季節感を大事にしつつ、身体を動かす活動を多めに取り入れています。春先には近所の公園へプチピクニックに出かけ、車椅子から降りて木陰の下でティータイムを楽しんだり、暑い夏の最中は室内で紙製の魚を使って釣り堀大会を開いたりしました。今度は「スポーツの秋」ということで、玉入れ競争でもしようかなー？ 担当○アシ

土曜クラブでは、季節感を大切にした活動を多く取り入れています。夏にはかき氷を作ったり、秋には旬のぶどうを使ってジャムを作ったり・・・あれ、食べ物のことばっかり！？食い気の強い土曜日の面々ですが、もちろんそれだけではありません！冬に向けて身体を温める活動も取り入れていこうと考えています♪どんどん楽しみましょう！！（^ー^） 担当○アシ



園芸クラブでは季節の野菜を育てています。チンゲン菜、ミニトマト、オクラに苺。虫食いや異常気象に挫けず（時には挫けながら）、すくすく育っています。メンバーが収穫後は料理の具材にして美味しいと頂いています♪今は冬用に鍋料理に使える野菜作りに挑戦中！みんな美味しい育ってね♡ 担当Wアシ



日々の活動の様子など随時更新中です♪
大地の家のブログ <http://ameblo.jp/daichi-no-ie/>



紙風船のページ

(P 5~8)

作品「ボーちゃん」 リメイク報告 パート4

8月に入り急ピッチで仕上げてきたボーちゃんでしたが、ようやく皆さんにお届けできる作品に完成させる事ができました。

限られた時間の中で毎日のように稽古を行い、メンバーもアシスタントもうまくできない戸惑いや焦り、集中を継続させる事の難しさを日々感じながら練習を行ってきました。月に一度の貴重なおばら先生の講座では、指導されたこと一つひとつを頭にたたき込み、自分たちでの復習を繰り返し行いました。

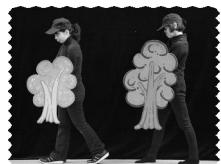
こうしてようやく、新ボーちゃんはスタート地点に立つことができました。

これも、紙風船を応援して下さっている皆様のあたたかいご支援のおかげです。

また曜日ごとに配役を変えた3つのパターンは、同じ「ボーちゃん」でもそれぞれ違った魅力に溢れています。役者が違うと、こんなにも作品自体の雰囲気が変わるものなんだとあらためて驚いています。と同時に面白いことだなあと気づくことができました。これからも、さらに一層楽しくて愉快な作品にしていきたいと思います。見どころ満載のボーちゃんをどうぞお楽しみに！



肌寒く感じる季節となりましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか？ 紙風船の作品ボーちゃんの動向や最近のメンバー達の元気に頑張る姿をご紹介していきます！



夢づくり基金のお礼



いつもご支援いただきありがとうございます。
今回「ボーちゃんリメイク制作費」として人形、小道具を合わせて約98万円の費用がかかりました。そのうち78万円を夢づくり基金より支出し、無事支払いを終えることができました。これも皆さんのが紙風船へのあたたかいお力のおかげです！皆さんの協力により完成したボーちゃんをたくさんの方に届けていきたいと思います。

また、今後とも夢づくり基金へのご協力よろしくお願ひいたします！

24時間テレビ出演! ～スギちゃんがやってきた!～

紙風船では昨年の「草の根チャリティー募金」に引き続き、24時間テレビに今年も参加させていただきました！

今回の24時間テレビでは三重県松阪市の障がい者アーティスト集団「希望の園」の皆さんのが描いた絵画を、世界一のエコキヤップアートで彩るという企画が行われていました。そしてこの企画に愛実の会が参加した事がきっかけとなり、紙風船の人形劇の取材が決定したのです。また取材にはあのお笑い芸人のスギちゃんがやってくるという事で、メンバー一同大興奮！

取材当日、この日はリメイクボーちゃんのお披露目会でもありました。なんと前説はスギちゃん！「ワイルドだろ～」を連発し、会場を笑いでなごましてくれ、緊張していた役者たちからも思わず笑みが浮かんでいたのが印象的です。

さすがプロの芸人さんですね！

スギちゃんはとっても気さくで、話しやすく、一緒に給食を食べたりと楽しい時間をメンバーと共に過ごしてくれました。人形劇も見てもらい、紙風船のテーマソング「風を下さい」も一緒に歌ってくれ、メンバーはスギちゃんからたくさんのパワーをいただいたようです。

今回の取材を通して、紙風船のメンバー達の元気の源が「人形劇」であることを改めて感じるとともに、活躍ぶりや元気な姿を、テレビを通してたくさんの方に見ていただけたことがとても嬉しかったです。放送後には、「たくさんの方から「とっても感動した！」」「素敵なお劇団だね！」と、すぐに温かいお言葉をいただきました。

放送に至るまで、何度もプロデューサーの方には施設に足を運んでいただきたり、取材の場面ではメンバーの思いを大切にし丁寧に声を聞いていただきました。

また、24時間テレビの放送中にスギちゃんがエンジしたいことを聞かれた際「これからは、僕もあせらずにぼちぼち行こうと思います！」とボーちゃんのセリフで答えてくれっていました。スギちゃんの心の中にも、紙風船の思いが届いたのかな…。紙風船を素敵に紹介してくださった中京テレビのスタッフ、関係者の皆さん、そしてスギちゃんに感謝の気持ちでいっぱいです！

中京TVアナウンサーの
鈴木アナ&濱田アナと
キッズアート作成中



スギちゃん缶バッヂを作ってプレゼント！



【公演だより】

第163回	2013年	8月24日(土)	北なごやパペットフェスタ「ボーちゃん」初演
第164回	2013年	8月29日(木)	港区社会福祉協議会主催 「ぼくたちにできること」
第165回	2013年	9月 5日(木)	豊明市からだけ保育園 「かめさんのありがとう」
第166回	2013年	9月14日(土)	大治町社会教育課主催 子育て楽楽フェスティバル 「ボーちゃん」
第167回	2013年	9月20日(金)	「ひまわり横丁」ご愛顧感謝祭 「ぼくたちにできること」イオンモール新瑞橋
第168回	2013年	10月13日(日)	ひまわりホールパペットフェスティバル「ボーちゃん」
第169回	2013年	11月10日(日)	星槎名古屋中学校文化祭 「ボーちゃん」
第170回	2013年	11月12日(火)	ハローワーク主催求人セミナーにて 「ボーちゃん」ナディアパークアトリウム
第171回	2013年	11月15日(金)	矢田中学校芸術鑑賞会 「ボーちゃん」ナディアパーク青少年文化センター

昨年末より、リメイク「ボーちゃん」を制作してきました。そしてついに「ボーちゃん」初演を各曜日3グループ共に迎えることが出来ました！今回初めて役者・音響に挑戦するメンバーがいたりドキドキと不安もありましたが元気よく公演でき、またお客様に喜んでもらえて良かったなあと思います。

他にも、たくさんの公演がありました。

中でもメンバーの卒園した「からだけ保育園」では、公演後たくさんの園児たちからの声援をもらいメンバーにも笑顔が溢れ嬉しかったことが印象に残っています。

新瑞橋イオンでの公演は、買い物に来ていたお客様も足を止めて紙風船の人形劇を見てくださいました。吹き抜け天井になっていて2階からもお客様が見てくれ、いつもとは違った新鮮な形の公演となりました。また他の団体も参加するイベントでしたので、いろんな方との関わりもでき良い機会となりました。

ボーちゃん初演！



新瑞橋イオンで
南区キャラクター
「ミオーちゃん」と！



公演予定

<2013年>

- 12月 7日(土) 「ボーちゃん」

西区ふくしもりあげ隊イベント 西区役所講堂

<2014年>

- 1月11日(土) 「ポンタとたっくん」

港養護学校同窓会

- 2月15日(土) 「ボーちゃん」

南区自立支援協議会 南区役所講堂

- 2月22日(土) 詳細未定

日本医工学治療学会第30回学術大会にて

- 3月1日(土) 19:00～ 演目未定

ダルクチャリティイベント 熱田文化小劇場

<メンバーの思い>

「ぼくの好きなこと」

佐藤 太亮

僕は紙風船のメンバー、アシスタントのみんなとお話することが大好きです。紙風船にきて、1年と6ヶ月がたちました。初めのころは、知らない人が多くて緊張してあまりしゃべれなかっただけど、今はいっぱい話ができるようになって嬉しいです。人形劇では音響を担当しています。大きな音が苦手で、最初は怖かったけど今ではとても楽しいです。もっとうまくできるようになりたいと思います。

また、スマップの歌で「JOY」という歌が好きです。この曲を聴くと元気になります。

ぼくも、人形劇を見に来てくれたお客さんに、元気になってもらえる公演を作っていきます！これからもよろしくおねがいします。



<協力者の思い>

「ぼちぼちいこか」でもう15歳

アトリエ羅道 おばらしげる

人形劇「ボーちゃん」のデザインには、1998年6月とある。ボーちゃんの最後のセリフは「ま！いいか！・・ぼちぼちいこか！」である。ぼちぼち歩き始めてもう15年になる。

なーにもなかった。事務所も・職員も・稽古場も。居たのは人形劇をしたいという4人の仲間と、父母と、わずかな協力者だけ。稽古場を求めて、生涯センターを転々とし、人形も道具もみんなで手分けして作り、初めての出づかいの人形劇に仲間は戸惑い悩み、とうして人形劇「ボーちゃん」は生まれた。

道徳に事務所を構え、専任の職員もでき、去る人、来る人、いろいろあったが、仲間が増え、音響設備も整い、照明機材まで手に入れた。もう一、形ではプロの人形劇団と何一つ変わらないまで成長した。

次の作品「モコちゃん」も誕生し、公演も順調にこなしたが、解決しなければならない問題もあった。そのひとつに「ボーちゃん」のリニューアルもふくまれる。公演の度に、多くの人間が動かなければならない。公演に出向く方も、迎える方もそれは大変な努力が必要だった。そこで小人数での公演を目指しての試行錯誤が始まった。

NHK大阪への出演をきっかけに、少人数作品の試作製作が始まり、その経験を経て、3班体制の作品が生まれ、そして3人のボーちゃんが誕生した。

紙風船の仲間全員がいつの日か全員ボーちゃんになって、自分の夢に向かって「ぼちぼち」歩んで行けたらいいね！・・・

共感をつくりだす時間の大切さ

南 寿樹

「もしも自分がカバのボーちゃんとして、お母さんから（もう大きくなつたんだから仕事しなさい）と言わされたら、なんて言う？」「なんて言うだろう…素直にはいって言っちゃうかな」「でもさ、ボーちゃんってそんなに素直ならもう働いてるよ」「じゃあ、お母さんを怒らせるようなこと言うかも」・・・ふれあい広場（港養護学校のすぐ北の公民館）の和室に寝ころびながらの脚本づくり。今から16年前のこと、作品「ボーちゃん」の原点である。結果として完成までに3年を費やしたが「みんなで（思い）を共感する、まつたりとした時間」を大切にしてきてよかったと思う。めいっぱい心を解放してイメージを膨らませながらも緩やかな緊張感を持って形を作っていくこの方式が私は大好きだ。楽しくて贅沢な時間だったと思う。

この楽しみを同じように大切にしていたのが、7年前までの大府養護学校高等部の生徒たちだ。新年度の始まる4月から11月に行われる文化祭まで、夏休みも返上して舞台劇の作品を0から作っていく。「今年の作品のテーマは？」「テーマに合わせてどんなストーリーにしようか？」「登場人物は？」…それをもとに、ひとりがとりあえず脚本を書き、「音楽は？」「衣装は？」「道具は？」と具体化していく。もちろん試練も待っている。作品づくりに対する思いの温度差に仲間同士でぶつかったり、やりたくてもできないジレンマに自分の障害と向き合ったり…しかし最後には乗り越えて、すてきな作品を作り上げていた。4月から11月まで、まさに全力で駆け抜ける「7か月の青春物語」—発表後は抱き合って泣く。卒業生は病気のため卒業後間もなく天に昇る仲間も多いが、その絆は強く夏に自主的な同窓会を毎年欠かさず行っている。その原動力はなにか—私はみんなで心をつなげたこの「7か月の青春物語」にあると思う。

さて、ここで「ボーちゃんの脚本づくり」と「大府養護学校高等部の劇作品づくり」のどちらにも共通しているのが「共感をつくりだす時間の大切さ」だ。それを今年度の文化祭（11月2日）で小学部全体の舞台劇を提案し、担当して改めて気付かされた。

（例年は、学年ごとの発表）

取り組み始めは9月の半ば。しかし文化祭の前に運動会（10月5日）があり、しかも取り組める時間は週に多くて3時間。発表時のスタッフ全員が集まれず、打ち合わせの時間もとれない。脚本は作ったものの、脚本に込めた思いは共有できず、知らないところで勝手に変更される。「もう時間がないので簡単にしない？」「テーマ曲は長いから半分にできない？」——どれもが（とりあえず見栄えのする子どもたちに負担のない簡単な出し物でいいのではないか）と言っているように聞こえて力が抜けた。どこの学校にもある（やっつけ行事）ということか…

「みんなで考えていくのは大事だけど、一人ひとりが好き勝手なことを言うだけじゃ作品は作れない。まとめていく人が必要。そしてみんなで共有する良い作品をつくるためには、時間がかかる」というおばらさん（アトリエ羅道）の言葉が身にしみた。個別支援計画など学校に限らず、効率主義社会は個人契約的な結びつきを多く生んだ。でもどうも冷たい結びつきだ。今こそ求められているのは「共に苦労を乗り越える連帯」ではないか！そのためにはたっぷりと時間も必要。紙風船や大府養護学校卒業生の仲間とのつながりの姿がそれを教えてくれている。

【NPO愛実の会 寄付者名（順不同・敬称略）】

2013年7月1日～10月31日】

★寄付金

村上裕子	中谷塩子	山崎京子	中森照子	下村徹嗣	清水茂雄	宮川優子
後藤光枝	藤掛朔生	町田玲子	武井陽一	足立克己	伊藤和子	大村恵子
臼田治子	梅村亜恵	北嶋寿一	佐藤全弘	青木光子	藤原義宣	長村秀勝
比企敦子	伊藤啓子	宮崎正和	吉田豊子	坂田昌子	伊藤和昭	阿部健二
生田庫央	生田静代	堀尾勇夫	杉山清美	間瀬滝子	岡本恵子	見木靖美
垣内裕子	大渕哲也	楽有紀美	稻田喜水	石田利彦	矢澤綾子	西村牧子
田中綏子	佐野都吾	(複数回)	中森由哉	(複数回)	島しづ子	(複数回)
榎原喜代子	前山美恵子	石崎亮史朗	石田伊志子	安藤眞知子	柘植久美子	
三矢かな江	佐々木伸夫	土屋美恵子	宇田ゆき子	伊藤きみ江	日比野房子	
今枝ミサ子	伊藤あつ子	榎本久美江	尾島夫規子	荒竹ひろみ	細川美代子	
古田真喜子	山崎眞由美	八木隆太郎	野村眞理子	伊藤てい子	吉岡満智子	
河合みち子	杉本誠	柏木實	陳光松	曹營戸	長津榮	三木一
杜文榮	徐美花	矯風会	桐村剛	野崎弘一・典子	市原信太郎・誉子	
京都みぎわキリスト教会		栄冠こども園	信濃村教会			

★紙風船夢づくり

潮田則行	中森照子	中森由哉	(複数回)	関島秀樹	浜嶋一史	西川道子
牧野雅樹	赤星実環	伊藤成美	岡田佳子	奥山喜正	矢澤綾子	野村裕子
宮原祐子	岡本恵子	斎藤充加	高橋綾子	北島敦子	酒井淳子	垣内裕子
松井正恵	杉村和枝	鈴木善和	宮地操			
板倉美恵子	石崎亮史朗	小薄満寿美	荒竹ひろみ	可知一三四	伊藤てい子	
栗木成二郎・宏美	ぐるーぶびっくり箱・黒柳公子			居酒屋いろり		

★物品寄付

宮嶋映子 小長覚子 福島真 安藤正・香代 桐村剛

ご協力ありがとうございました。

【任意団体「障がい者・友だちの会・愛実」受付分（順不同・敬称略）】

塩田みのり 小長覚子 笠谷恵子 島隆三郎 吉谷尚之（複数回）



<法人研修旅行の報告>

竹内 秀剛

10月17日～19日、台湾北部にあるAngel Centerを訪問した。いわゆる重症心身障がい児(者)施設ではなく、重身の方はもちろんのこと知的障がいだけを持つ方も通っていた。

また0歳児から50歳の成人の方までを受け入れているということだったので、利用者層が多岐に渡っていることが伺えた。

本格的な感覚統合訓練室や日常生活訓練室等を見学させてもらえたが、センターの規模の割には立派な機材が揃っており、国の支援の手厚さを実感した。しかし一方で、障がい者施設の少なさからこのセンターへの利用が集中しているようにも感じ、多岐に渡る利用者をケアする職員の苦労を感じた。

日本では障害者自立支援法ができ、障害者総合支援法ができ、障がいの壁を作ること無く利用者を受け入れるように謳われている。けれどこのセンターを訪れてそれはなかなか難しいことなのではないかと思った。それは国の手厚い支援があるからこそ、重身、知的…、幼児、学齢期、成人…とそれぞれに合った環境が整備されていると感じたからだ。

日本には障がい別、年齢別に細分化された施設が多く、それぞれの特徴に合わせたプログラムを提供している。しかしそれを一つの施設で行うには職員の質の向上はもとより、行政のサポートももっと必要なのではないかだろうか。

今回の研修では部署の壁を越えて皆で2泊3日を共にしたが、普段関わりの少ないアシスタントもいる中で、多くの時間を共有できたことはとても有意義だったを感じている。これまで、多忙ゆえに生じているコミュニケーションの不足から、お互いを深く知ることができずに協力し合える場面が少なかった。しかし、今回共に旅をする中で新たな一面を垣間見ることもでき、コミュニケーションをとる機会も多かったので、アシスタントの相互理解が深まったのではないかと思う。今回の旅で得たアシスタント同士の関わりと信頼関係を今後の愛実の会全体でのチームケアにつなげていきたい。

今回のような大掛かりな研修はなかなか難しいが、今後定期的にアシスタント同士が関わりを持てるプログラム等が実施されると、より良いケアが行えるのではないかと思う。



【退職&新人アシスタントの紹介】

□退職正職アシスタント：阿知波愛実

2013年8月をもちまして退職されました。お働きに感謝して、
今後のご活躍をお祈りいたします。

□新人パートアシスタント：佐々木真由美

2013年8月より働いております。福祉の仕事は初めてで、
まだ右も左も分からない状態ですが、次第に皆さんとの交流ができるようになってきています。今後の活躍をご期待ください。

<福祉体験授業を終えて>

戸田 真二

10月29日 港区にある高木小学校へ車いすの福祉体験授業に講師として招かれて行ってきました。テーマは「車いすに乗っている人の気持ちを考えよう」小学5年の72名の子どもを対象に福祉って何だろう？そして乗っている人の気持ち？何をどう伝えたらしいのか悩みました。毎日車いすを押してはいるけど、自分自身乗ったことがない。自分は乗っている人の気持ちがわかっているのか、ここからのスタートとなりました。そして思いついたのが、心のバリアフリーをイメージした「天国と地獄のスプーン」の話です。

天国と地獄 どちらも全く同じシチュエーションです。食堂のテーブルには盛り沢山の御馳走が並べられています。左手はイスに縛られ使う事が出来ません。右手には自分の腕より長いスプーンがくくり付けられています。食事の時間が始まりました。地獄では食べ物をすくってもうまく口に運ぶことができず、互いにののしり合い誰一人食事をすることが出来ずに飢えていました。しかし天国では、長いスプーンを使って上手に食事を取っていました。お互いに声を掛け合い、すくった食べ物を相手の口まで持っていく「ハイ！どうぞ」「ありがとう」相手の気持ちを考え声を掛け合い、互いに助け合いながら豊かな食卓を囲んでいたのです。この話をリアルに面白おかしくした後、天国も地獄も実はみんなの心の中にあることを伝えました。

それから車いすの体験が始まりました。4人ひと組=18のグループに分かれて車いすを押す人、乗る人、困った時に助ける人、それぞれ分担して体育館に設置された車いす体験コースを回ります。チームワークの良いグループ、知らんふりして助けない人、ふざけ合う人、いろいろな人間模様が見られて面白い光景でした。でも最後の難所ではみんなが互いに声を掛け合い、大きな段差を3人で持ち上げ「いくよ～！せーの～」助けあってのゴール！みんなとても楽しそうでした。

コースを4週、全員がそれぞれの立場を体験して2時間の授業が終了。福祉には幸せを作りだすという意味があります。いろんな幸せの形があるけれど、今日は天国、そして一部地獄も体験できた想い出の1日となりました。



【チャリティーウォーカソン寄贈】

2013年5月19日（日）長久手のモリコロパークにて、在日米国商工会議所、名古屋国際学園共催の『チャリティーウォーカソン』が開催され、紙風船のメンバーとアシスタントが楽しく参加させていただきました。
また愛実の会へ200,000円のご寄付をいただき、一同たいへん喜んでおります。寄付は今年度の新年会と成人祝いの費用として使わせていただきます。本当にありがとうございます。

【ボランティアで協力いただいた方】

ルーテル復活教会様（給食ボランティア）

港区自立支援協議会より港区歯科医師会の皆様

木嶋ヨシヒロ様 PETA様（ケーナ&ギター演奏）

ご協力をありがとうございます



【「NPO愛実の会」寄付金のお願い】

* 移転改装費

借入金残額2800万円 年600万円×5年で完済予定です。自助努力しておりますが、どうぞご協力ください。移転して4年が経ちました。広い空間でそれぞれのディイが特色を生かしながら笑顔いっぱい楽しく毎日を過ごしています。

* マンツーマン体制の充実を目指して

愛実の会の大きな特色として、メンバーとアシスタントが1対1で向き合い、寄り添いながら手厚いケアと充実した活動を実践していることが挙げられます。これは重度の障がいを持つひとりひとりのメンバーを大切に、心の声を聴き共に歩んでいくために必要と考えます。

* 人形劇団紙風船の夢づくりのために

ボーちゃんリメイクへのご支援ありがとうございました。

今年も嬉しい事に、学校や保育園でたくさんの公演を行わせていただいています。今後も人形劇の活動が豊かに継続して行っていけるように願っています。

引き続きのご協力をお願い申し上げます。

郵便振替 座番号 00850-6-187490
 座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何□でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・土地建物取得費用・その他 N P O 愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形制作費、公演活動に関する費用とする）

※夢づくりへご寄付の場合は、お手数ですが通信欄に「紙風船夢づくり」とご記入ください。（記載がない場合は「寄付金」として取り扱わせていただきます。）

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

- 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）
- 障がい者ティセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームヘルプ http://www.aminokai.com